
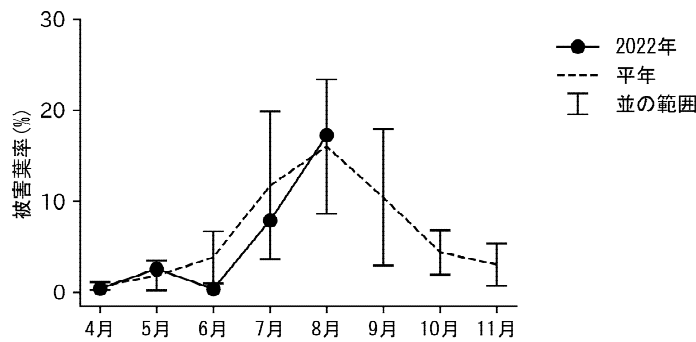


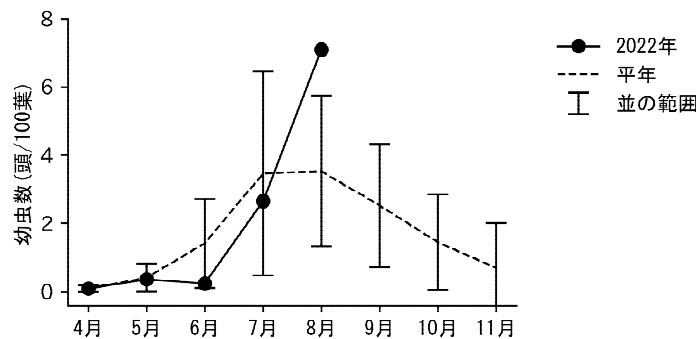
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

イモキバガ (被害) の今期と平年の発生推移



イモキバガ (幼虫) の今期と平年の発生推移




・発生ほ場率100% (平年 : 98.4%)

防除のポイント

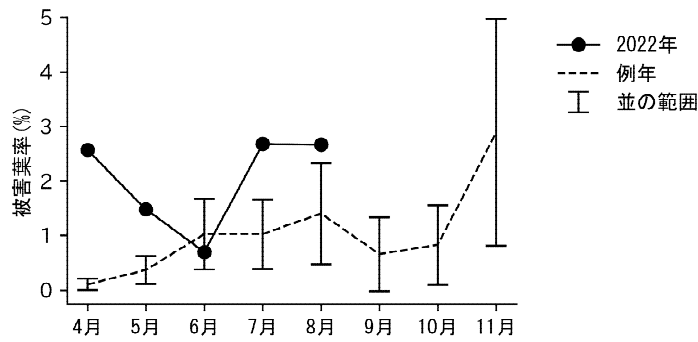
- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・つづられた葉の内部に潜んでおり、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。



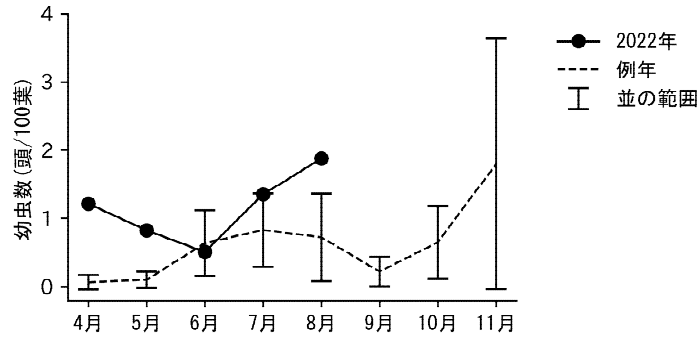
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② トリバ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トリバ類 (被害) の今期と例年の発生推移



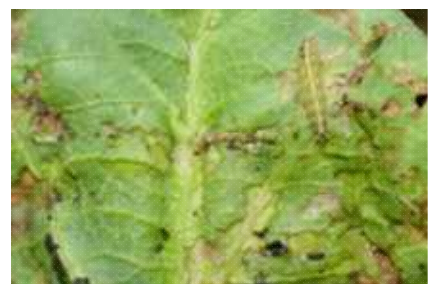
トリバ類 (幼虫) の今期と例年の発生推移




・発生ほ場率87.5% (例年 : 58.3%)

防除のポイント

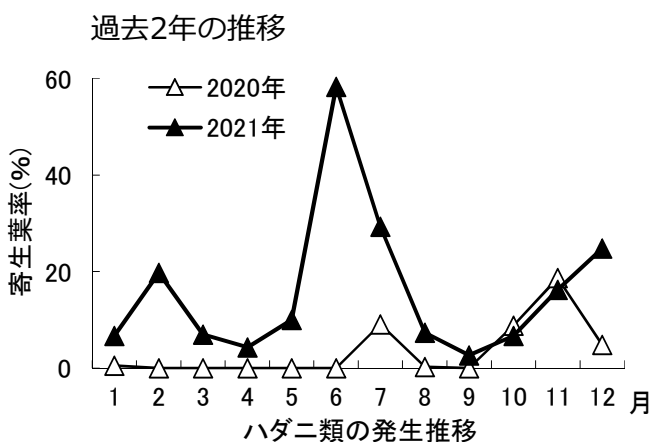
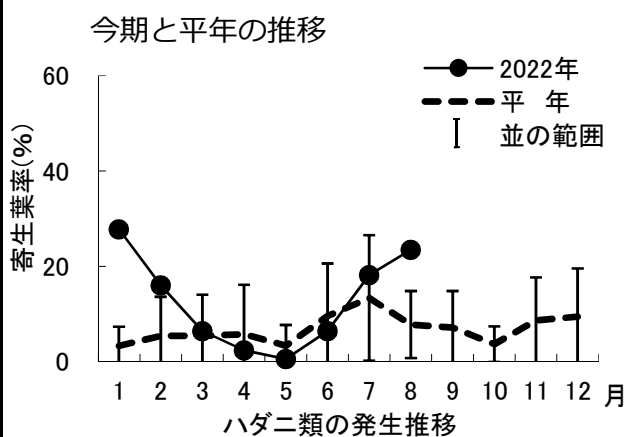
・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。



被害葉

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>ミカンハダニ</p>
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
		9 月の発生量（平年比）	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




・発生ほ場率 80.0%（平年39.5%）

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

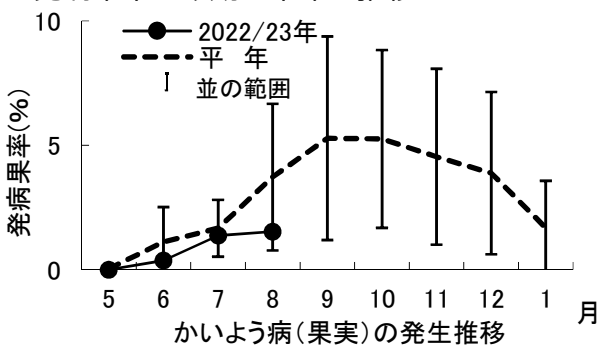


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

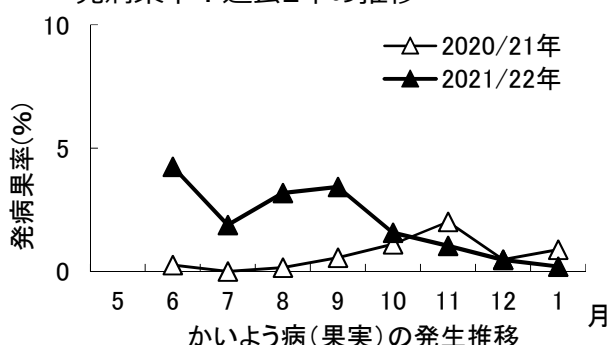
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島	
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)			並
予報	8 月からの増減傾向			↗
	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病果率：今期と平年の推移

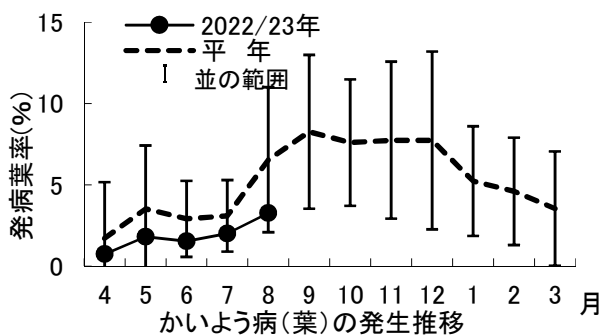


発病果率：過去2年の推移

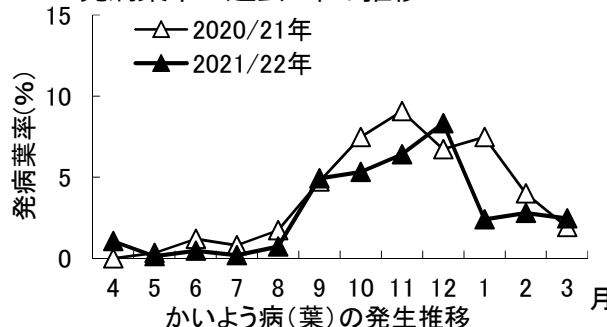


・果実の発病度0.3 (平年0.7)、発生ほ場率40.0% (平年70.5%)

発病葉率：今期と平年の推移



発病葉率：過去2年の推移




・葉の発病度0.7 (平年2.1)、発生ほ場率20.0% (平年86.4%)

防除のポイント

- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

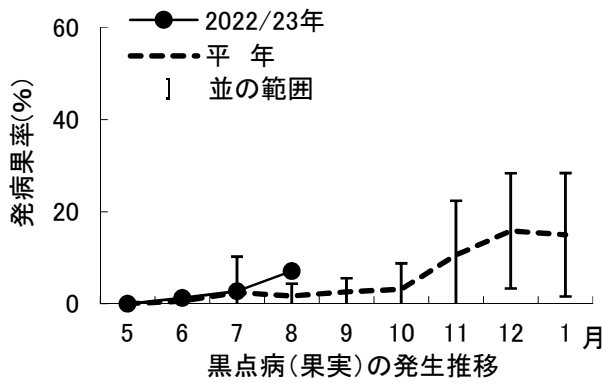


被害葉→

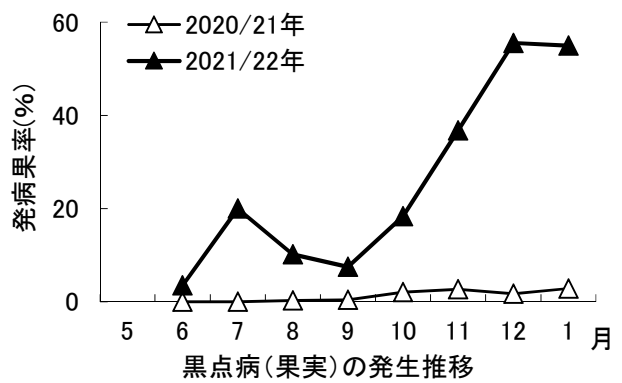
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病				
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多			
予報	8 月からの増減傾向	→			
	9 月の発生量（平年比）	やや多			
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



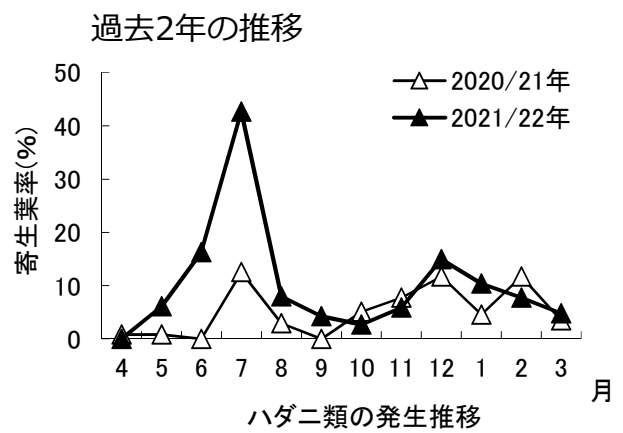
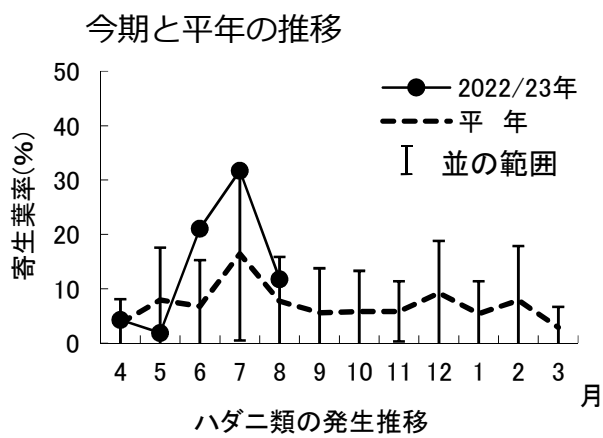
- ・ 果実の発病度 1.8（平年 0.5）
- ・ 発生ほ場率 80.0%（平年 40.9%）

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>ミカンハダニ</p>
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




・発生ほ場率60.0%（平年54.5%）

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

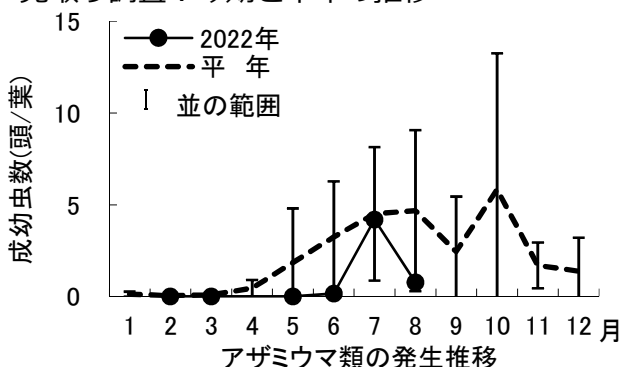


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

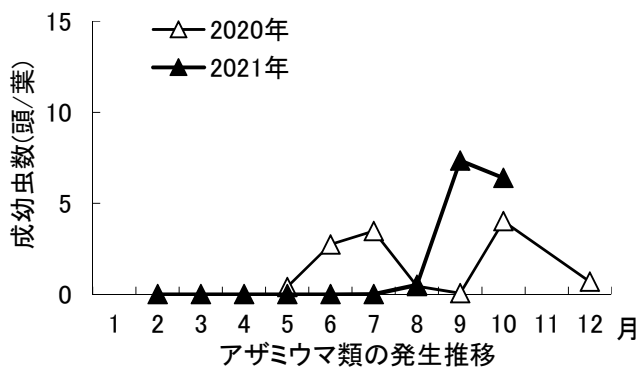
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

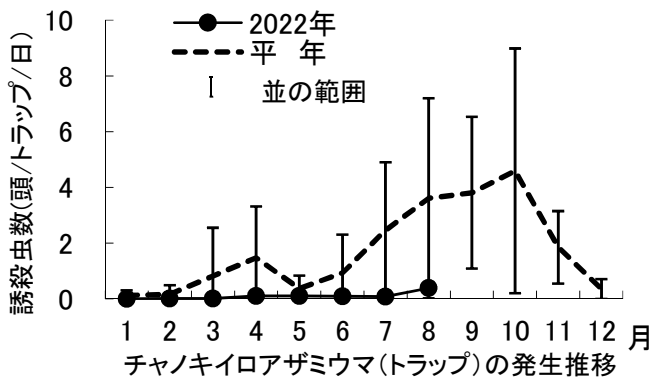
見取り調査：今期と平年の推移



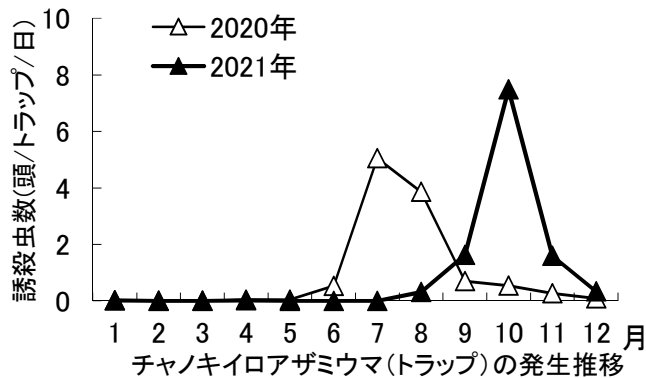
見取り調査：過去2年の推移



トラップ調査：今期と平年の推移



トラップ調査：過去2年の推移




・発生施設率 50.0% (平年値 86.3%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

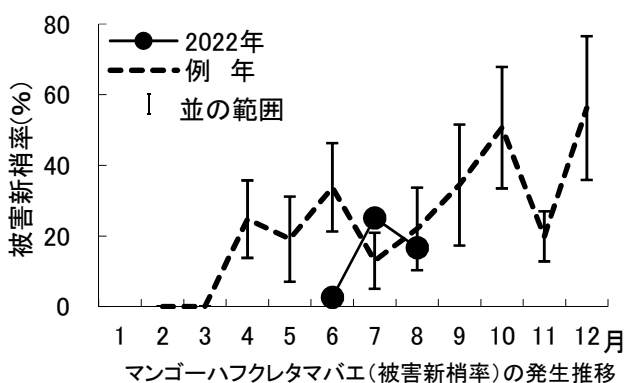


ナガエコミカンソウ

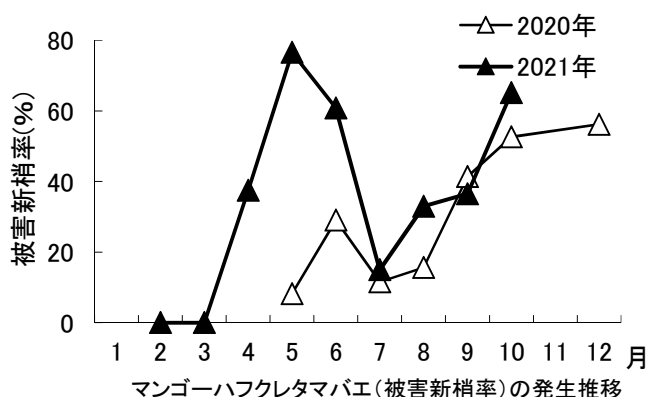
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生施設率 37.5% (平年値 87.0%)

防除のポイント

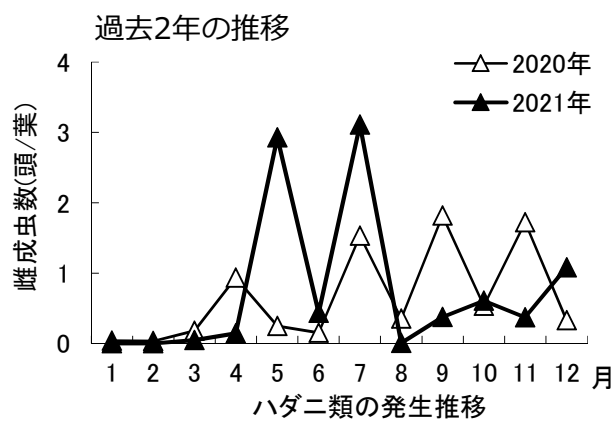
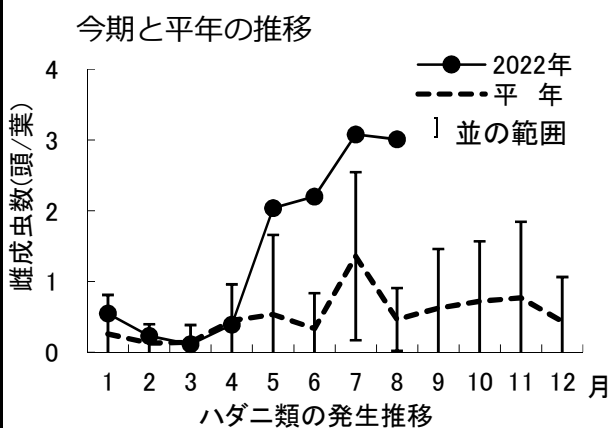
- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。



被害葉

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率：50.0% (平年60.3%)
- ・一部施設では、シュレイツメハダニの多発生が見られた

防除のポイント

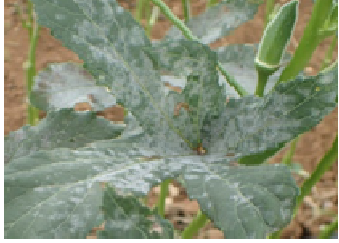
- ・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

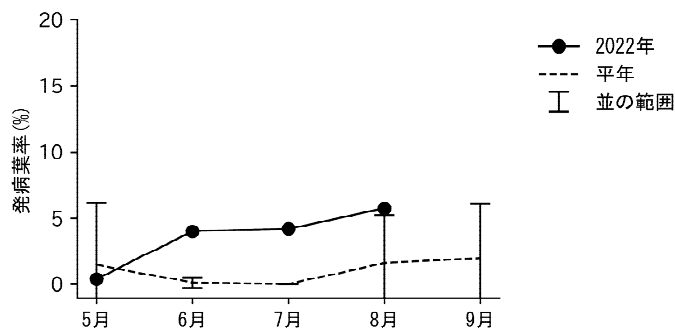


マンゴーツメハダニ

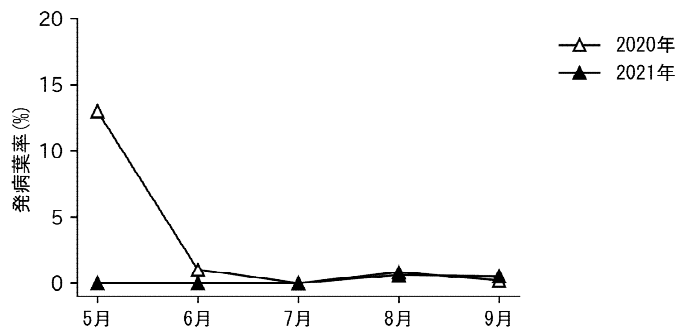
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

うどんこ病の今期と平年の発生推移




うどんこ病の過去2年の発生推移



・発生ほ場率60.0% (平年：28.9%)

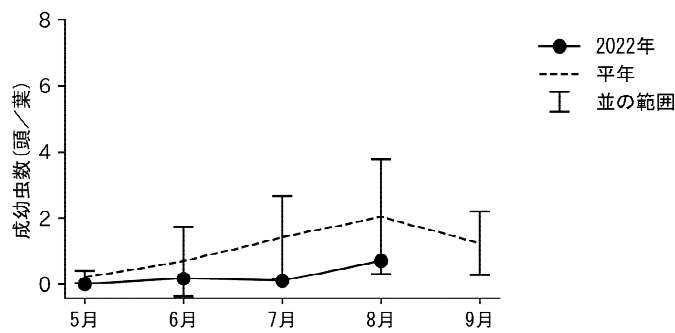
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

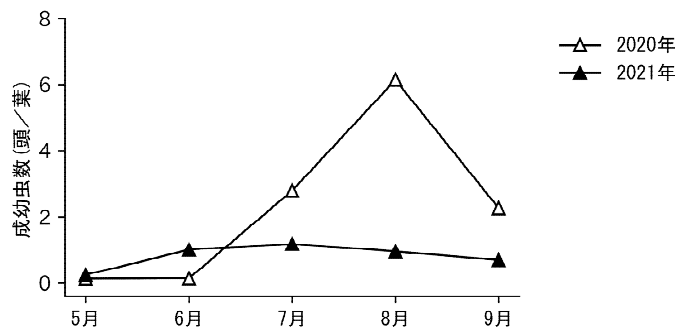
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

フタテンミドリヒメヨコバイの今期と平年の発生推移



フタテンミドリヒメヨコバイの過去2年の発生推移




・発生ほ場率100% (平年 : 75.6%)

防除のポイント

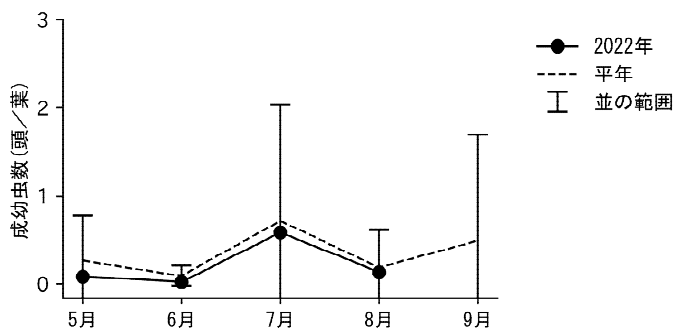
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



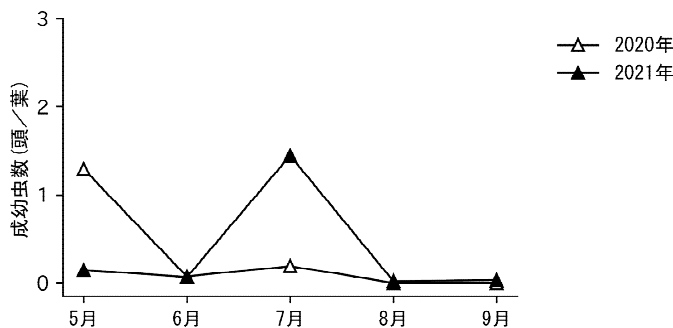
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

アブラムシ類の今期と平年の発生推移




アブラムシ類の過去2年の発生推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 24.4%)

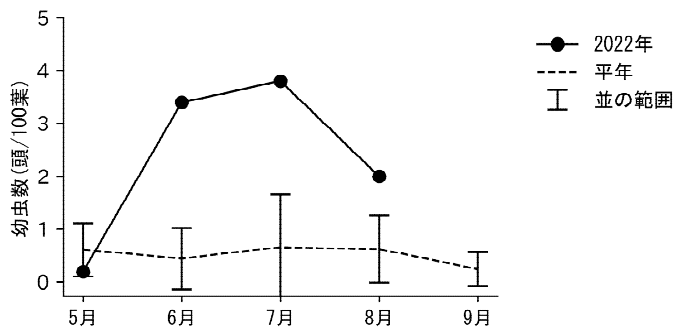
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

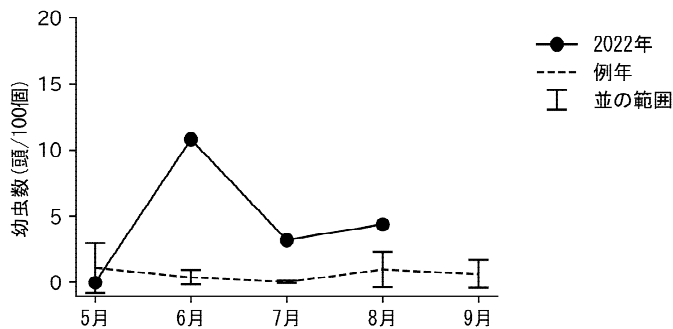
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

チョウ目幼虫の今期と平年の発生推移



チョウ目幼虫(果実)の今期と例年の発生推移



・発生ほ場率40.0% (平年: 28.9%)、一部ほ場で多発
 発生種: ハスモンヨトウ、ワタノメイガ

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫による食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

